



秋冬どいキャベツの病害虫防除対策について

キャベツの生育中には、アオムシやヨトウムシ、ハスモンヨトウ、ウワバ類 などチョウ目害虫や、アブラムシ類などが発生します。これらの害虫対策として、育苗期や定植時の土壌処理は有効で、処理後2~4週間くらいの防除効果が期待できます。

ただし、フェニックス顆粒水和剤など IRAC 分類コード: 28 (ジアミド系薬剤 表中) では、ハスモンヨトウなどには効果が認められている一方、コナガに対しては殺虫効果の低下が確認されています。コナガを対象に防除する時には別の薬剤を使うようにしてください(営農 News 第 3069 号 アブラナ科野菜のチョウ目害虫対策について参照)。

育苗期や定植時に処理した薬剤の効果が切れる頃になると、害虫の産卵や幼虫ふ化が始まります。発生に気づかないと防除が手遅れになって減収を招いてしまいますので注意が必要です。

病害虫発生予報 8 月号(県病害虫防除所)によると、オオタバコガの 9 月の発生量はやや多い、シロイチモジヨトウはやや多い~多いと予想されていますので、キャベツをよく観察し、各種害虫の発生初期に防除を徹底してください。

一方、生育中に発生する病害としては、黒腐病や黒斑細菌病、軟腐病、株腐病などがあります。例年 9 月に入ると、秋雨前線による連続した降雨や暴風雨の発生、台風の襲来などにより各種病害の発生が懸念されます。常に気象情報や作物を注意深く観察して、予防散布や発生初期の薬剤防除を徹底してください。

病害虫防除の際は、下記を参考に農薬のラベルで登録内容を確認し、収穫前日数に十分注意して防除を実施してください。



アオムシ幼虫



ハイマダラノメイガ幼虫と被害

写真:病害虫防除所



黒腐病



表1 キャベツ本圃(生育期)における主要害虫の主な防除薬剤

(令和5年8月22日現在)

薬剤名	アオムシ	ヨトウムシ	シロイチモジヨトウ	ハスモンヨトウ	ウワバ類	コナガ	ハイマダラノメイガ	オオタバコガ	アザミウマ類	アブラムシ類	分類
アニキ乳剤	○		○	○	○	○	○	○			6
ディアナSC	○	○		○	○	○	○	○	○		5
プレオフロアブル	○	○	○	○	○	○	○	○	○ <small>※</small>		un
トルネードエースDF	○	○	○	○	○	○	○				22A
コテツフロアブル	○	○	○	○	○ <small>※</small>	○	○	○			13
アクセルフロアブル	○	○		○	○	○	○	○			22B
ファルコンフロアブル	○	○		○	○ <small>※</small>	○	○	○			18
フェニックス顆粒水和剤	○	○		○	○		○	○			28
グレースシア乳剤	○	○	○	○	○	○	○	○	○		30
モベントフロアブル	○					○			○	○	23
リーフガード顆粒水和剤	○					○	○		○	○	14
コルト顆粒水和剤									○ <small>※</small>	○	9B
モスピラン顆粒水溶剤	○					○			○	○	4A

注) 分類欄には、IRAC コードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

表2 キャベツ本圃(生育期)における主要病害の主な防除薬剤

(令和5年8月22日現在)

薬剤名	黒腐病	黒斑細菌病	軟腐病	菌核病	株腐病	べと病	分類
カセット水和剤	○	○	○				24 と 31
カスミンボルドー	○	○	○				24 と M1
バリダシン液剤5	○		○		○		U18
スターナ水和剤		○	○				31
ナレート水和剤	○		○				31 と M1
Zボルドー	○	○	○			○	M1
セイビアーフロアブル20				○	○		12
シグナムWDG				○	○	○	7 と 11
トップジンM水和剤				○	○		1
パレード20フロアブル				○	○		7
ロブラール水和剤				○	○		2
リゾレックス水和剤					○		14
ランマンフロアブル						○	21
ダコニール1000						○	M5

注) 分類欄には、FRAC コードを記載しました(コードが2つは混合剤)。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は J A 全農いばらきホームページでもご覧になれます。